
阿南工業高校・新野高校の再編統合に係る報告書

平成22年3月

新しい学校づくり阿南市地域協議会

目 次

I	はじめに	1
II	協議結果	2
1	新しい学校の教育内容について	2
2	設置場所について	4
III	再編統合に関する提言	5
IV	おわりに	6
資料	阿南市地域の中学3年生の生徒数の推移	7
 参考資料		
1	新しい学校づくり阿南市地域協議会の審議経過等	8
2	新しい学校づくり阿南市地域協議会委員名簿	9
3	新しい学校づくり地域協議会設置要綱	10

I はじめに

徳島県教育委員会は、外部有識者などからなる高校教育改革再編検討委員会の「全県的な高校再編のあり方について」の最終報告を受け、平成18年3月に「高校再編方針」を策定した。

この方針では、今後の生徒数の減少などを踏まえ、県下の7地域において再編を進めることとし、阿南市地域においては、阿南工業高校と新野高校の教育を基本に再編を行い、特色ある学校づくりを進めていくこととしている。

平成18年10月、徳島県教育委員会から本協議会に対し、「高校再編方針」に基づき、阿南工業高校と新野高校を再編統合した新しい学校の教育のあり方等について検討し、その結果を取りまとめ、報告するよう依頼があった。

本協議会では、将来の阿南市地域の高校教育のあり方を考えたとき、両校の再編統合は必要であるとの共通認識に立ち、両校が培ってきた教育やそれを支えてきた地域の方々の思いにも配慮しながら、新しい学校づくりについて、慎重に協議を重ねてきた。

また、今後の生徒数の推移や、「高校再編方針」策定後の周辺高校の変化など、阿南市地域特有の状況も踏まえ、これからの再編統合の進め方などについても、提言することとした。

ここに、本協議会として「阿南工業高校・新野高校の再編統合に係る報告書」を取りまとめたので報告する。

II 協議結果

新しい学校の教育内容等については、阿南工業高校と新野高校の両校がこれまで培ってきた工業教育，総合学科教育を継承するとともに、「ものづくり」を重視した教育や，総合学科に設置する系列の再編・充実などを行い，工業科・総合学科併設のメリットを活かした特色ある教育を展開するため，次のように取りまとめた。

1 新しい学校の教育内容について

(1) 教育の基本方針

① 目指す学校像

- ア 生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校
- イ 国際化，情報化など時代の変化や多様な生徒の進路に対応できる学校
- ウ 望ましい職業観，勤労観を育成する学校
- エ 豊かな人間性をはぐくむ学校
- オ 地域に開かれ，地域に貢献できる学校

② 育てたい生徒像

- ア 自ら学び，自ら考え，主体的に判断・行動できる心身ともにたくましい生徒
- イ 国際化・情報化社会に対応できるコミュニケーション能力や情報活用能力を身につけた生徒
- ウ インターンシップなどを通して，望ましい職業観，勤労観や社会規範を身につけた生徒
- エ 互いの人権や自他の生命を尊重し，支え合う仲間づくりに努める生徒
- オ 地域の一員として，ボランティア活動などにも進んで取り組める生徒

(2) 設置学科

大学科	小学科	大学科	系列
工業科	機械科 電気科 建設科	総合学科	人文芸術系列 自然科学系列 情報ビジネス系列 生物資源活用系列

(3) 各学科の教育内容

① 工業科

機 械 科	制御システム コース	各種制御に関する知識や技術を習得するとともに、電子機器やロボット工学などのメカトロニクス分野の技術を身につけ、機械制御分野で活躍できる技術者をを目指す。
	ものづくり コース	「ものづくり」の基礎基本を身につけ、インターンシップなどを通して実践的な技術を磨くことにより、ものづくり分野で幅広く活躍できる機械技能分野のスペシャリストを目指す。
電 気 科		電力・通信・制御に関する知識や技術を習得するとともに、実践的な技術を磨き、生活に欠かせない電気分野で幅広く活躍できる技術者をを目指す。
建 設 科		土木に関する知識や技術を習得する。さらに、建築について学べる科目を選択することで、住まいから都市計画まで社会基盤の整備に関する分野で幅広く活躍できる技術者をを目指す。

② 総合学科

人文芸術系列	国語や外国語など人文科学の内容を中心に学ぶことを通して、読解力や表現力、コミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる能力と態度を身につける。また、芸術の学習を通して、鑑賞能力や感性、創造的な表現力を高める。
自然科学系列	数学や理科など自然科学の内容を中心に学び、自然科学分野の基礎学力を身につけるとともに、実験や観察などを通して、事象を科学的に考察し、処理する能力と態度を身につける。
情報ビジネス系列	情報と商業の専門科目を融合して学ぶことを通して、情報収集・発信能力やビジネス力など、デジタル化、ネットワーク化された情報社会に対応できる能力と態度を身につける。
生物資源活用系列	農業の基礎やバイオテクノロジー等の技術を学ぶことを通して、生産性を高める栽培方法や環境にやさしい農業について研究するなど、生物資源を有効に活用できる能力と態度を身につける。

(4) 特色ある教育について

- ① 生徒の能力・適性，興味・関心や就職から進学まで多様な進路希望に対応するため，工業科・総合学科併設のメリットを活かして，学科の枠を越えた科目選択ができる総合選択制を導入する。
- ② 「ものづくり」のすばらしさを体験し，問題を発見し解決する能力や自分の考えを的確に表現する力を身につけるため，例えばLEDに代表される地域の素材や地域の技術力・教育力を活かし，農業，工業，芸術などにおける「ものづくり」を推進する。
- ③ 望ましい職業観，勤労観や社会人として必要な能力や態度を育てるため，地元企業や地域社会，NPOとの連携を深め，インターンシップなど校外における体験的，実践的な学習を積極的に取り入れる。
- ④ 人とのかかわりの少なさや生活体験の不足などを補い，思いやりの心をもつ次世代の担い手を育成するため，自らを成長させ，地域に貢献できるボランティア活動や社会体験活動を推進する。

2 設置場所について

本協議会として，新しい学校の設置場所を提案すべく，現在の校地を前提に，両校の現状や必要な教育施設の確保，交通の利便性，地域バランスなど，設置場所の決定にあたって考慮すべき諸要素に配慮しながら，総合的に検討を行った。

数回にわたる協議会での検討の中で，阿南工業高校，新野高校いずれの校地に新しい高校を設置するかについて，新たな校地も含めて様々な意見が出されたが，結果として，委員間で合意に達せず，本協議会として提案するまでには至らなかった。

徳島県教育委員会において，今後，新しい学校の設置場所を検討するにあたっては，本協議会でのこれまでの協議内容や，次に記載する「再編統合に関する提言」等を踏まえて，地域の理解が得られるよう，慎重に判断されることを要望する。

Ⅲ 再編統合に関する提言

本協議会においては、両校の再編統合を協議するにあたって、将来の阿南市地域全体の高校教育のあり方や、今後の生徒数の推移、地域の高校の状況変化などについても検討を行った。

その結果、これからの再編統合の進め方等について、本協議会として次のとおり意見を集約したので、提言する。

まず、将来の阿南市地域全体の高校教育のあり方については、普通科教育は富岡西高校と富岡東高校の両校が担うこととし、阿南工業高校と新野高校を再編統合した新高校においては、できれば本協議会が上記Ⅱで提案した内容にとどまらず、一層幅広く魅力のある教育内容を備えた「総合型専門高校」として職業教育等を担うことにより、地域全体で進学にも就職にもしっかりと対応できる体制を構築し、地域の子どもたちの期待に応えるべきであると考えている。

一方、阿南市地域には、再編を進めている他の地域と異なり、生徒数や地域の高校について、次のような地域特有の状況が見られる。

- ・阿南市地域の中学3年生の今後の生徒数の推移を見ると、来年度（平成22年度）は753名であるが、年度によって増減はあるものの、平成26年度は793名、平成28年度は781名と予測されるなど、当面、他地域のよような生徒数の減少は見られないこと。（P7の資料を参照）
- ・平成18年3月に徳島県教育委員会が「高校再編方針」を策定して以降、平成21年度には富岡西高校に新たに理数科が設置され、また、平成22年度には富岡東高校に併設型中高一貫教育が導入されるなど、地域の高校の状況が大きく変化しつつあること。

こうしたことを考え合わせれば、阿南市地域の再編統合にあたっては、現状をもとに拙速に行うのではなく、より地域が望む「総合型専門高校」となるよう、今後、生徒数の推移、新たな学科・制度の導入等による地域の高校の状況変化や子どもたちの進学動向への影響などについて十分に見極めた上で、「高校再編方針」を踏まえた適切な時期に、設置場所などを含む再編統合計画を策定し、進めていくべきであると考えている。

また、これまでの本協議会の協議結果を踏まえ、再編統合計画の策定までの間においても、例えば、阿南工業高校では専門性の高い工業教育を行うための学科再編の検討、新野高校では設置する3系列の充実や本協議会で提示された新たな4系列の調査研究などを行い、両校の教育の充実・活性化のために必要と考えられる取組については、先行して行うよう要望する。

IV おわりに

本協議会では、平成18年度から合計9回の協議会を開催し、阿南市地域の新しい学校の教育のあり方等について、「高校再編方針」を踏まえて検討を重ねた結果、設置学科など新しい学校の教育内容について、Ⅱに記載のとおり取りまとめた。

また、その上で、新しい学校が、一層幅広く魅力ある教育内容を備えた「総合型専門高校」として、地域の子どもたちの期待に応えていくためには、両校の再編統合を拙速に行うのではなく、今後の地域の状況変化等を十分精査した上で、再編統合を進めるべき旨を、Ⅲに記載のとおり、本協議会の提言として整理した。

言うまでもなく、阿南工業高校、新野高校の両校ともに、地域に支えられ、地域とともに発展してきた、歴史と伝統のある学校である。

両校を再編統合した新しい学校が、より一層、地域社会の発展に貢献し、地域にとってかけがえのない高校となるよう、この報告書に基づき、徳島県教育委員会において更なる検討を進めていただきたい。

資料

阿南市地域の中学3年生の生徒数の推移

	現在の学年・年齢	県全体の生徒数	阿南市地域の生徒数 (A)	再編方針策定時 の生徒数 (B)	A-B
平成21年度	中学3年	7,446	795	820	△ 25
平成22年度	中学2年	7,339	753	776	△ 23
平成23年度	中学1年	7,225	744	753	△ 9
平成24年度	小学6年	7,085	715	725	△ 10
平成25年度	小学5年	7,249	770	757	13
平成26年度	小学4年	6,993	793	780	13
平成27年度	小学3年	7,058	693	708	△ 15
平成28年度	小学2年	6,972	781	754	27
平成29年度	小学1年	6,684	690	687	3
平成30年度	5歳	6,504	699	636	63
平成31年度	4歳	6,323	662	626	36
平成32年度	3歳	5,931	632	616	16
平成33年度	2歳	6,116	650	606	44
平成34年度	1歳	5,987	697	596	101
平成35年度	0歳	5,775	606	586	20

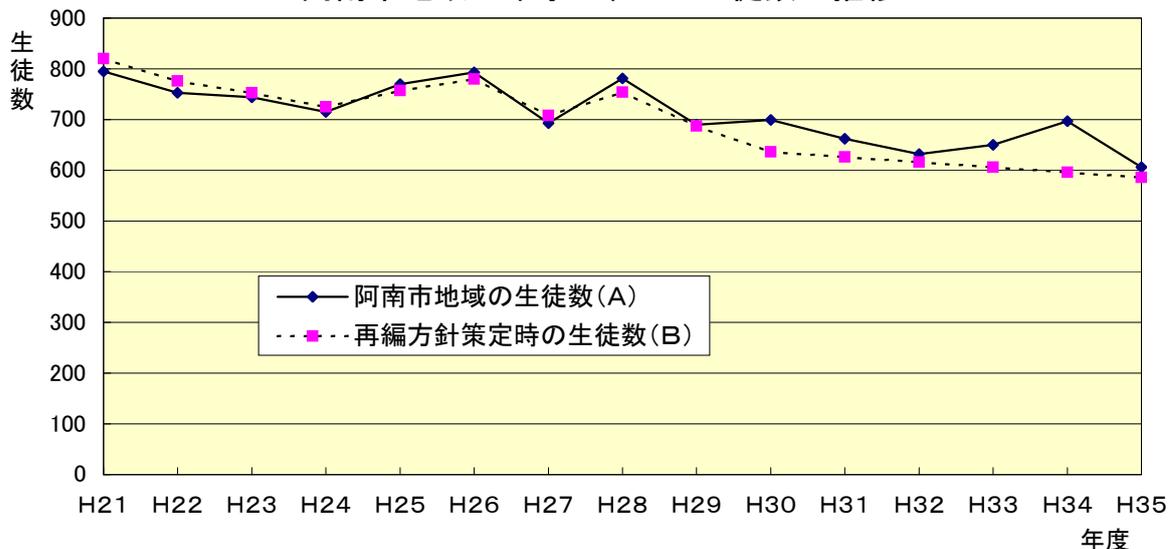
※1 県全体の生徒数、阿南市地域の生徒数について

平成21年度から平成29年度までは学校基本統計(H21.5.1現在)による児童・生徒数、
平成30年度から平成35年度までは住民基本台帳(H21.3.31現在)による各歳別人口である。

※2 再編方針策定時の生徒数は、高校再編方針策定にあたって予測した生徒数を示している。

※3 下の図は、上記の表をグラフにしたものである。

阿南市地域の中学3年生の生徒数の推移



参考資料

1 新しい学校づくり阿南市地域協議会の審議経過等

回	開催日	検討内容等
1	平成18年10月11日	○森吉会長，多田(敏)副会長選出 ○高校再編方針について ○新しい学校の教育について
2	平成19年 1月15日	○新しい学校の教育について
3	平成19年 8月 6日	○新しい学校の教育の基本方針について
4	平成19年12月19日	○新しい学校の教育の基本方針について ○新しい学校の設置学科等について
5	平成20年 3月 7日	○新しい学校の教育内容等について ○新しい学校の特色ある教育について
6	平成20年 9月 4日	○新しい学校の教育環境等について
7	平成21年 8月 4日	○新しい学校の教育内容，教育環境の整備等について
8	平成21年12月16日	○新しい学校の教育環境の整備等について
9	平成22年 3月24日	○報告書の取りまとめについて

開催場所：阿南工業高等学校 会議室

2 新しい学校づくり阿南市地域協議会委員名簿

(順不同・敬称略)

氏名	役職等	年度	備考
魁生 彰弘	阿南中学校PTA会長	H18～H21	保護者
鎌田 武	桑野公民館長	H18～H21	地域代表
四宮 澄夫	新野小学校長	H18～H19	学校関係者
宮本 和宏	中野島小学校長	H20～H21	学校関係者
○多田 敏子	徳島大学医学部教授	H18～H21	学識経験者
多田 康文	新野高等学校同窓会幹事	H18～H21	学校関係者
苫井 孝文	富岡小学校PTA会長	H18～H21	保護者
広瀬 守	阿南第二中学校長	H18～H20	学校関係者
前原 達三	椿町中学校長	H21	学校関係者
古川 恭子	阿南市教育委員会委員長	H18～H19	市教育委員会
湯浅 忠宏	阿南市教育委員会委員長	H20～H21	市教育委員会
松本 利照	阿南工業高等学校同窓会監事・学校評議員	H18～H21	学校関係者
◎森吉 英樹	徳島文理大学非常勤講師	H18～H21	学識経験者
湯浅 隆幸	阿南商工会議所参事	H18～H21	地域代表
井上 実	阿南工業高等学校長	H18	高校長
岩瀬 一裕	阿南工業高等学校長	H19～H21	高校長
小笠 泰史	富岡東高等学校長	H18～H19	高校長
森 清治	富岡東高等学校長	H20～H21	高校長
美馬 康男	新野高等学校長	H18	高校長
岡田 啓二	新野高等学校長	H19～H20	高校長
渡部 俊彦	新野高等学校長	H21	高校長
湯浅 利久	富岡西高等学校長	H18～H19	高校長
福井 清二	富岡西高等学校長	H20～H21	高校長

◎ 会長 ○ 副会長

(役職等については就任当時のものを記載)

3 新しい学校づくり地域協議会設置要綱

(設 置)

第1条 高校再編方針に基づき、別表に掲げる地域において、新しい学校づくり地域協議会（以下「地域協議会」という。）を設置する。

(名 称)

第2条 前条に規定する地域協議会の名称は、別表のとおりとする。

(任 務)

第3条 地域協議会は、高校再編方針を踏まえ、新しい学校のあり方や再編に向けた学校間連携について検討を行い、その結果を県教育委員会に報告する。

(組 織)

第4条 地域協議会は、委員15名以内で構成する。

- 2 委員は、別表に掲げる地域の高校長及び市町教育委員会の代表者のほか、再編の対象となる高校の長又は関係市町教育委員会の推薦を受けた者のうちから、県教育委員会が委嘱する。
- 3 委員候補者の推薦に当たっては、学校関係者、保護者、地域代表又は学識経験者のうちから選任するものとする。

(会長及び副会長)

第5条 地域協議会に会長及び副会長1名を置く。

- 2 会長は委員の互選によって定め、副会長は会長が指名する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 地域協議会の会議は、会長が招集し、運営する。

- 2 地域協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めその意見を聴くことができる。

(実務者会議)

第7条 地域協議会に、専門の事項について調査・研究を行うため、実務者会議を置く。

(庶務)

第8条 地域協議会の庶務は、別表に掲げる各地域毎の事務担当高校及び教育改革課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、地域協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年6月1日から施行する。
- 2 この要綱は、協議会の任務終了後は、その効力を失う。

別 表

地 域	名 称	事務担当高校
鳴 門 市	新しい学校づくり鳴門市地域協議会	鳴門第一高校
阿 南 市	新しい学校づくり阿南市地域協議会	阿南工業高校
吉野川市・阿波市	新しい学校づくり吉野川市・阿波市地域協議会	鴨島商業高校
美馬市・つるぎ町	新しい学校づくり美馬市・つるぎ町地域協議会	貞光工業高校
三好市・東みよし町	新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会	辻 高 校